

2024 年度 内部質保証活動方針に基づく活動の総括

獨協大学 内部質保証推進委員会
委員長 前沢 浩子

獨協大学では毎年、内部質保証推進委員会（以下、本委員会）が策定した年度方針に基づき内部質保証活動を推進している。本総括は、「2024 年度 内部質保証活動方針」に基づく内部質保証活動の総括である。年度方針に掲げた 3 つの大項目に沿って総括した。なお、本総括には、本委員会の下に置かれる各委員会の諸活動も反映している。

1. 自己点検・評価

「自己点検・評価報告書」の更新

2023 年度同様、自己点検・評価活動結果に基づき「自己点検・評価報告書」の更新を行う。2024 年度は各章の「問題点」の更新に主眼を置き、関連する項目の更新を行う。

第 186 回委員会（2024 年 4 月 16 日）で、自己点検・評価の成果を基に『自己点検・評価報告書 2023』の更新を各部局に依頼した。更新結果は、『自己点検・評価報告書 2024（抜粋）』としてとりまとめ、事務局自己点検・評価委員会、点検評価委員会において確認した。本委員会では、第 191 回委員会（2025 年 1 月 28 日）で、主要な新規・変更事項が反映され、全学的に自己点検・評価活動が実施されていることを確認した。

2. 内部質保証推進活動

（1）「内部質保証チェックシート」の作成

各部局・委員会において、「内部質保証チェックシート」を作成し、各々の重点項目について計画管理を行う。計画に際しては、目標の数値化や明確化など共通の指標となる目標の具体化を図る。

（2）全学的な重点項目

「簡略化」「可視化」「実質化」に配慮しながら、以下の事項に取り組む。

- ① 外部アセスメントテスト（GPS-Academic）の実施
- ② manaba ポートフォリオの本格稼働
- ③ カリキュラムの点検・評価（新カリキュラムの初年度運用状況など）
- ④ 全学的な FD・SD 活動への参加奨励
- ⑤ 教学課程委員会の再検証

（1）「内部質保証チェックシート」の作成

第 186 回委員会において、2024 年度内部質保証推進計画に基づく「内部質保証チェックシート」の作成を各部局、委員会に依頼し、PDCA サイクルの把握を行うこととした。2024 年度は、外部委員の意見を参考に、計画立案の際に、目標の数値化や明確化などを意識し、実質化により重きを置く形とした。

第 189 回委員会（2024 年 7 月 16 日）で、各部局、委員会の「2024 年度の計画」を確認・検証した。各部局、委員会ともにより具体的かつ全学的な活動計画が可視化されており、内部質保証の実質化が更に進んだといえる。

第 192 回委員会（2025 年 3 月 18 日）にて、PDCA サイクルの「結果」を確認した。本委員会の下、全学的にも、また各部局においても、PDCA サイクルが有効に機能していることを把握でき、改善に向けた運営が適切になされたといえる。

（２）全学的な重点項目

① 外部アセスメントテスト（GPS-Academic）の実施

学生の汎用的能力（特に全学 DP）の測定を目的として、今年度 4 月から 6 月末にかけて、GPS-Academic を 3 年生に実施した。学生は、受検結果から自身の学習成果の把握や自己分析をすることができ、就職活動等への活用も期待される。本委員会では中間報告、最終報告として「GPS-Academic の結果報告会」（2024 年 10 月 29 日）を開催し、受検結果の分析及び活用について共有した。

② manaba ポートフォリオの本格稼働

学科ごとの DP 達成度を測定することを目的として、manaba ポートフォリオを 2024 年 9 月に運用開始した。学生は、所属学科の DP 達成度を自身の成績に基づいたレーダーチャート形式で確認できる。但し、継続運用には課題が残る。

③ カリキュラムの点検・評価（新カリキュラムの初年度運用状況など）

第 189 回委員会で、各学部へ新カリキュラムの初年度運用状況等の点検・評価を依頼し、第 190 回委員会（2024 年 10 月 29 日）で、各学部から点検・評価結果の報告がなされた。各学部とも 3 つのポリシーに基づき、適切にカリキュラムが運用されていることを確認した。

④ 全学的な FD・SD 活動への参加奨励

FD・SD 推進委員会を中心に「全学的な FD・SD 活動」を推進し、教職員参加率 75% 以上を達成できた。各部局において、全学的又は部局単位での FD・SD 活動が数多く実施され、多数の教員の参加につながった。

また、FD・SD 推進委員会において、2024 年度 FD 活動方針「大学教育のあり方を模索する」を定め、同方針に基づき、全学的な FD 講演会を実施した。

⑤ 教学課程委員会の再検証

教学課程委員会は、規程上、今年度中に再検証が必要だったため、第 187 回委員会（2024 年 6 月 4 日）で、教学課程委員会の約 3 年間の活動報告・成果を総括した上で、全学教授会（2024 年 8 月 1 日）にて規程の一部改正を行った。

3. 「大学評価（認証評価）結果」対応

2025 年 7 月の「改善報告書」提出を見据え、2024 年度末を 1 つの期限として具体的目標を掲げ、改善達成を目指す。改善進捗状況は、「2024 年度 大学評価（認証評価）結果の指摘事項改善進捗状況一覧」を用いて管理する。

第 186 回委員会にて、改善課題への対応と「2024 年度大学評価（認証評価）結果の指摘事項改善進捗状況一覧」の作成を関連部局に依頼した。改善課題 4 件のうち解消済みの課題も含め、概ね改善傾向であるが、「改善報告書」提出に向け、本委員会において継続的に進捗管理を行うこととした。

第 189 回委員会で、「改善課題」に対する「2024 年度改善計画」を確認し、計画の着実な実施について共有した。学士課程の定員管理（超過）について、全ての学部学科において基準値を下回るよう、改めて定員管理の適正化について共有した。

第 192 回委員会にて、「2024 年度改善報告」について確認し、改善計画の実施実績、改善状況、課題などを共有した。定員管理の課題は、2025 年 5 月 1 日時点の大学基礎データに基づき改善状況が判断されるため、引き続き注視していく。

改善課題として指摘された、DP に基づく学習成果の把握・評価については、2023 年度

に制定した「獨協大学アセスメント・ポリシー」、「アセスメント・DP 対応表」、「獨協大学大学院アセスメント・ポリシー」に即して、全学的にも学部学科・研究科単位においても多角的かつ適切に取り組まれている。また、本委員会の下、2024 年度春学期に外部アセスメントとして、GPS・Academic の実施及び manaba ポートフォリオを運用開始した。大学全体として、学習成果の可視化に資することが期待される。

学士課程の定員管理については、交流文化学科の収容定員に対する在籍学生数比率が改善されたものの、同比率が全学的に増加傾向にあり、適正な定員管理の要請を改めて行い、引き続き注視する必要があることを本委員会で共有した。今後も本委員会、入試委員会を中心に目標入学人数の検討を行い、改善に努めていく。

編入学定員に関する指摘については、第 228 回全学教授会（2023 年 2 月 15 日）において、学則の一部改正（定員の付替）が承認され、2024 年 4 月 1 日に施行されたことにより、解消された。

大学院における定員管理については、これまで収容定員の削減を中心とした計画が進められており、2024 年度から一部コース（経済学研究科経済・経営情報専攻情報専修コース）を廃止し、大学院全体としても収容定員の削減を実施した。また、定員削減だけでなく、大学院委員会、各研究科委員会を中心に改善対応を行ってきた。その結果、2024 年度の収容定員に対する在籍学生数比率について、一定の改善がみられた。引き続き大学院委員会、各研究科委員会を中心に改善に向けて取り組んでいく。

これまで、点検評価委員会にて「改善報告書（原案）」の審議・承認がなされ、第 192 回委員会で、「改善報告書（原案）」の審議を行った。「改善報告書」の提出に向け、引き続き本委員会で取り扱っていく予定である。

4. その他の活動

・各種アンケートについて

全学生を対象に「授業評価アンケート」を各学期の授業終了時に実施した。今年度から、設問内容を一部変更し、シラバスチェックや授業の満足度を問う内容に改めた。また、アンケート実施期間や教員のフィードバックコメント期間を見直し、回答率向上と実施の効率化に努めた。自由記述部分については、例年同様、テキストマイニングによる傾向分析結果を、点検評価委員会で検証した。また、全体の集計結果を点検評価委員会、本委員会で報告し、個別の集計結果は学部学科等にフィードバックしている。なお、今年度は隔年実施の「教育環境改善アンケート」も併せて実施したので、今後、施設や窓口対応等の改善に繋げる予定である。2022 年度から実施している「学年修了時アンケート」及び「卒業時アンケート」についても点検評価委員会、本委員会において集約結果を報告し、改善の参考になるよう共有した。

・「在学生の声を聴く会」及び「卒業生の声を聴く会」について

学生参画の観点、また卒業生から意見を直接聞き、今後の大学運営の参考にすることを目的として、「在学生の声を聴く会」（2025 年 1 月 11 日）、「卒業生の声を聴く会」（2025 年 2 月 8 日）をオンラインで開催した。本学の DP 簡略版に関する質問、学習成果の可視化、授業の形態・方法や到達目標達成度、国際化推進、キャリア関係、大学の活動への参画など、多岐に亘る項目について意見聴取した。これらの意見を参考に、今後の教育改善や大学運営に活かしていく考えである。

以 上